

今号の表紙スケッチ

【若戸大橋】北九州市(若松区-戸畑区間)

明治後半から昭和にかけて、北九州地方の工業が飛躍的に発展し、若松は筑豊炭田をバックに日本一の石炭積み出し港になり、戸畑は隣接する八幡製鐵所の鉄鋼生産が活況を呈する。職を求めて人が集まり、行き来が激しくなるが、若松と戸畑の間は洞海湾でへだてられ、渡船が頼りであった。当然大量の物流もかなわない。そして、昭和の初め、若戸渡船の転覆事故があり70数名が亡くなった。こうして連絡道路の計画がもちあがった。当初はトンネルで計画されたが、戦争で頓挫した。戦後、有料道路制度が法整備され、橋梁案が出された。そして1958年に着工、4年の歳月を要して1962年に完成した。土木技術的にも、日本における長大橋の先駆けとして画期的で、当時東洋一の吊橋として脚光を浴びた。こうして長年の地元の夢がかなえられた。その後今日まで半世紀、今年9月50周年を迎えた。時代の趨勢とともに、交通体系や産業構造も大きく変化し、人々の生活も変わったが、橋が果たす役割はますます大きくなっている。とはいっても日常の平穏な暮らしもある。橋のたもとから出ている渡船は、人や自転車を乗せて3分で海を渡る。通学の学生や買い物帰りの年配の女性たちと小さな船に乗り込み、爽やかな海風に吹かれながら渡るのも格別だ。

(絵と文/安田泰幸 ©YASUDA YASUYUKI)



旧古河館若松ビル 大正時代に建てられた、大正ロマンの石炭積み出し港の繁栄を象徴する建築



面白工業倶楽部 旧松本家住宅 九州工業大学前身、明治専門学校の敷地内にて、建築家・松本健之助の古宅。設計の松本金吾のアール・ヌーヴォー建築が美しい



孫次郎 昭和の頃から行われていた、戸畑の伝統行事で、色とりどり

編集 50周年記念誌編集委員会  
 発行 一般財団法人 全国建設研修センター  
 〒187-8540 東京都小平市喜平町2-1-2  
 TEL 042(321)1634(代表)